



2020年6月期企業動向アンケート調査（第101回）

～今期はマイナス幅が過去2番目、来期は今期比改善ながらマイナスが続く見込み～

1. アンケート回答企業の今期（4～6月期）の業況判断D I（全体）は「▲ 52」と、調査開始以来D Iが最も悪かった 2009 年 I 期（▲ 54）に次ぐ結果となった。来期（7～9月期）の見通しも「▲ 44」とマイナスの状態が続く見込み。

＜全般的業況判断D Iの動き＞

業 種	D I		
	前期	今期	来期見通し
全 体	▲ 33	▲ 52	▲ 44
製 造 業	▲ 38	▲ 52	▲ 52
建 設 業	▲ 9	▲ 25	▲ 21
卸 小 売 業	▲ 46	▲ 59	▲ 51
サービス業	▲ 39	▲ 72	▲ 51

2. 業種別では、全ての業種で前期比悪化し、サービス業は「▲ 72」に大幅悪化。来期も、全ての業種で悪化を見込む回答が多数となり、D Iのマイナス幅は依然として大きい。
3. 資金繰りD Iは、全体で「▲ 12」と前期比 10 P 悪化し、設備・店舗等D Iは、「▲ 10」で横ばいだった。雇用者数D Iは「▲ 25」で前期より 20 P 改善した。
4. 今年の夏季賞与支給（見込み）総額は、前年比「横ばい（48.5%）」が最も多く、1人あたりの平均支給倍率は 1.38 倍、平均支給額は 30 万円であった。
5. 2019 年度の採用者数は、全体で 1,648 人、うち、県内出身者は 1,169 人、外国人が 109 人であった。業種別では、サービス業が 635 人（うち、県内 500 人、外国人 10 人）と最も多い。採用者の履歴では、「中途採用」が 1,228 人（うち、県内 834 人、外国人 100 人）と最も多かった。
6. 新型コロナウイルス感染症（以下「新型肺炎」）の影響は、3 月比で「強まった（38.6%）」が最も多い。対策では、「マスク・消毒液の備蓄（68.1%）」「就業時のマスク着用（63.1%）」など感染拡大防止の回答が多かった。

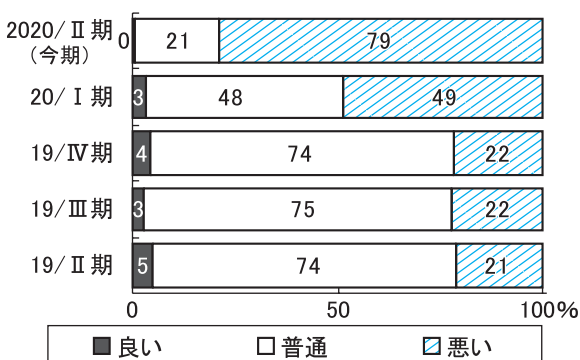
○ 現在の県内景気をどう見ていますか？

＜「悪い」が 79%に急増＞

県内景気の判断は「悪い」が 79%と前期比 30 P 拡大し、「良い」はゼロであった。

回答企業の業況判断D Iは、今期・来期とも新型肺炎の悪影響が見込まれることから、県内景気の判断も「悪い」が際立つ結果となった。

県内景気の判断



—アンケート調査の概要—

実施期間：2020年6月1日～6月15日

対 象 先：県内に本社または支店等を有する企業（600社）

内 容：①景況判断

②自社の業況

③2020年夏季賞与支給状況について

④2019年度（19年4月～20年3月）の採用者数について

⑤新型コロナウイルスの影響と対策

調査方法：郵送によるアンケート

回収状況：回答企業 298社（回答率49.7%）

※本調査は、当所と宮崎県が共同で実施し、調査結果は県政にも活用されることになります。

<回答企業内訳>

		業 種				資 本 金		
		製造業	建設業	卸小売業	サービス業	3千万円未満	1億円未満	1億円以上
企業総数	298 100.0%	99 33.3%	66 22.2%	79 26.6%	53 17.8%	159 57.8%	101 36.7%	15 5.5%
県 央	142 47.8%	29	30	50	33	75	53	7
県 北	71 23.9%	26	18	18	9	36	22	5
県 南 西	84 28.3%	44	18	11	11	48	26	3

注）業種、資本金、所在地の未記入企業があり、総数と一致していない。下段は企業構成比率

<所在地区分>

県 央：宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡

県 北：延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡

県南西：都城市、小林市、えびの市、日南市、串間市、北諸県郡、西諸県郡

<業種区分>：サービス業には、製造、建設、卸小売業以外の業種を含む

<文中の用語>

前期：2020年1～3月期（3月調査）

今期：2020年4～6月期（6月調査）

来期：2020年7～9月期（9月調査）

Ⅰ期：1～3月、Ⅱ期：4～6月

Ⅲ期：7～9月、Ⅳ期：10～12月

D I（Diffusion Index）

「好転・増加・過剰」の回答割合(%)－「悪化・減少・不足」の回答割合(%)＝D Iで、景気動向を判断する指標のひとつ

P：ポイント

1. 全般的業況判断

(前期比)

(表1、図1)

大幅悪化

今期の全般的業況DI(「好転」-「悪化」)は全体で「▲52(前期比19P悪化)」と、リーマンショックの影響が深刻化した2009年I期(▲54)に次ぐ結果となった。

業種別、従業員別、資本金別とも、業況は総じて前期比悪化し、業種別では「サービス業(▲72)」が同▲33Pと大幅に悪化した。

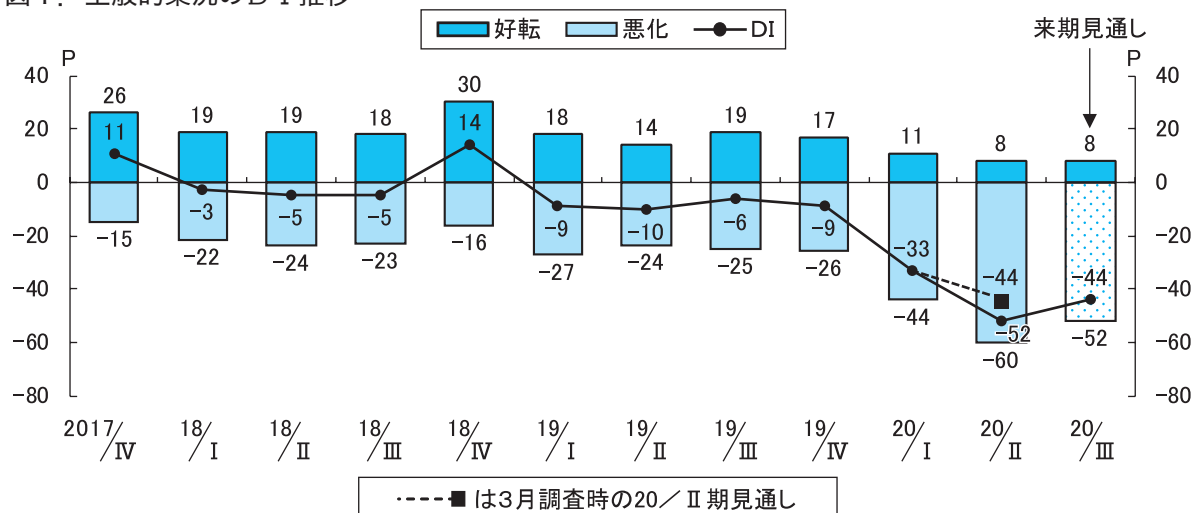
表1. 今期の全般的業況(業種別・規模別)

単位: %、ポイント

項目	業況	好転 (A)	悪化 (B)	今期DI (A)-(B)	前期 DI	来期 DI
全 体 (298)		8	60	▲52	▲33	▲44
業 種						
製 造 業 (100)		7	59	▲52	▲38	▲52
建 設 業 (66)		8	33	▲25	▲9	▲21
卸 小 売 業 (79)		14	73	▲59	▲46	▲51
サ ー ビ ス 業 (53)		2	74	▲72	▲39	▲51
従 業 員						
50人未満(170)		7	62	▲55	▲40	▲49
50~99人(53)		4	55	▲51	▲25	▲41
100~199人(28)		14	61	▲47	▲44	▲54
200人以上(33)		12	58	▲46	▲12	▲33
資 本 金						
3千万円未満(160)		6	60	▲54	▲31	▲45
3千万~1億円未満(101)		9	59	▲50	▲35	▲46
1億円以上(15)		13	53	▲40	▲35	▲46

不明分は除く、()は回答企業数

図1. 全般的業況のDI推移



2. 業種別DI

業況(前期比)、売上・利益(前年同期比)

○製造業(図2、次頁表2)

前期比悪化

今期の全般的業況DIは、前期比14P悪化して「▲52」となった。分野別でも、全ての分野で悪化の回答が多く、新型コロナウイルスの影響による「営業の自粛」「受注の減少」などの理由が挙げられた。

来期も、新型コロナウイルスの影響の長期化が予想され「売上の減少」や「販売価格の下落」等から、DIは「▲52」と前期比横ばいの見込み。

図2. 製造業DI

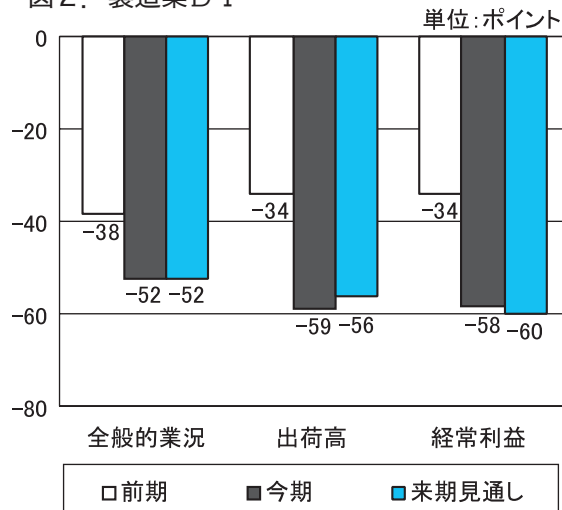


表2. 製造業9分野における業況D I

単位：％、ポイント

分野	好転	不変	悪化	今期DI	前期DI
食料品・飲料	14	14	72	▲ 58	▲ 54
繊維製品	0	50	50	▲ 50	▲ 33
木材木製品	0	50	50	▲ 50	▲ 47
化学製品	0	0	100	▲100	▲100
窯業土石	0	50	50	▲ 50	▲ 33
機械器具	0	0	100	▲100	▲ 50
金属製品	0	56	44	▲ 44	▲ 43
電気電子部品	0	50	50	▲ 50	▲ 33
その他製造業	10	35	55	▲ 45	▲ 16

○建設業 (図3)

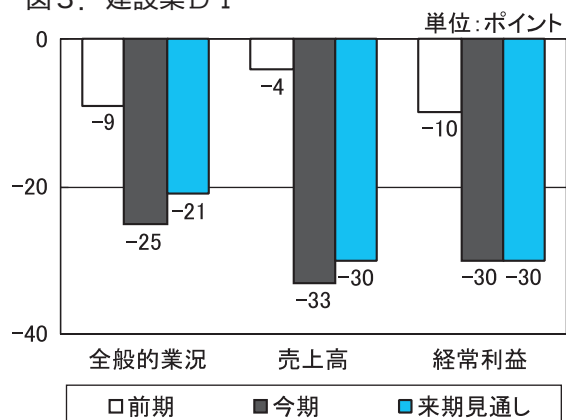
前期比悪化

今期の全般的業況D Iは、「▲25」と前期比16 P悪化した。

「受注案件の予定あり」等「好転」の回答が一部にある一方、新型肺炎の影響による「資材納期の遅れ」「工期の延期」「県外案件が移動制限で停滞」など、「悪化」の回答も多かった。

来期も「新型肺炎で工期の見通しが不明」等、「悪化」の回答が依然多いものの、「公共工事の受注」等、「好転」の回答も増え、D Iは「▲21」とやや上向き見込み。

図3. 建設業D I



○卸小売業 (図4)

前期比悪化

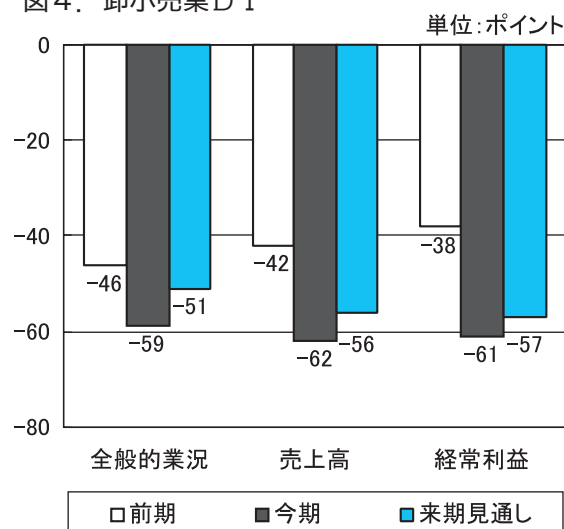
今期の全般的業況D Iは「▲59」と、

前期比13 P悪化した。

「宅食が増え、惣菜・青果物の売上が好調」など「好転」の回答も一部にみられたが、「外出向けの業務用食品、酒類の激減」「移動制限による燃油の売上減少」など、「悪化」の回答が多かった。

来期は、一部に新型肺炎後の特需を期待する回答があるものの、感染第2波等の先行き不安などから「悪化」の回答も依然多く、D Iは「▲51」の見込み。

図4. 卸小売業D I



○サービス業 (次頁図5)

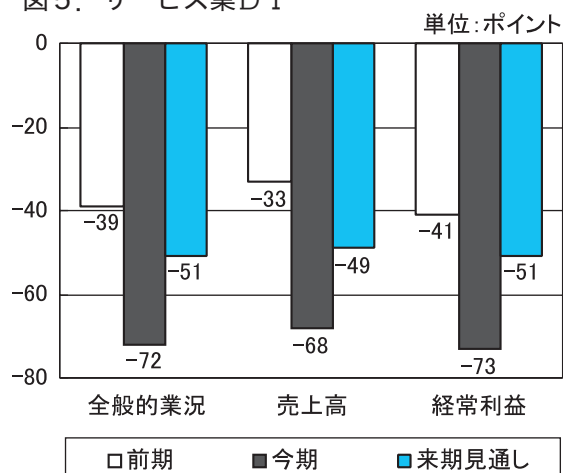
大幅悪化

今期の全般的業況D Iは「▲72」と、前期比大幅悪化(▲33 P)となった。

「乗客の減少」「イベントの中止」「旅行のキャンセル」「非常事態宣言による休業」など、「悪化」の回答が増えた。

来期は「インターネット注文の増加」や「休業再開、来客の増加」「移動自粛緩和による旅行者の増加」等、回復を見込む回答が増えたが、「新型肺炎による営業活動の縮小が続く」等、厳しい状況が続く回答が多く、D Iは「▲51」の見込み。

図5. サービス業D I



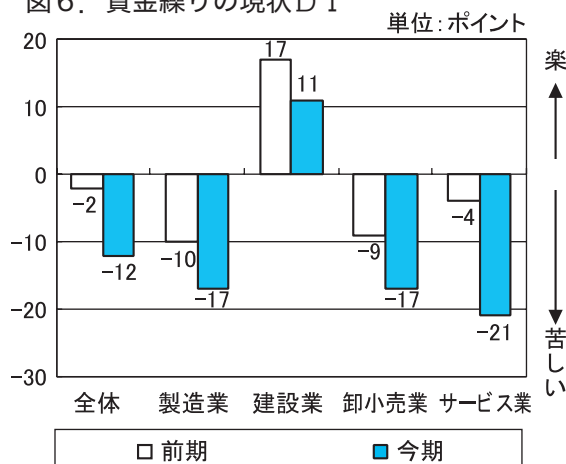
3. 資金繰りの現状 (図6)

前期比悪化

資金繰りの現状D I (「楽」-「苦しい」)は、全体で「▲12」と前期比▲10 Pとなった。

業種別では、全業種で前期比悪化し、サービス業 (▲21) は17 P悪化した。

図6. 資金繰りの現状D I



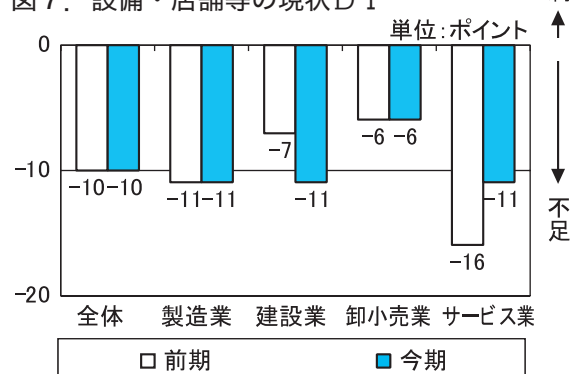
4. 設備・店舗等の現状 (図7)

前期比横ばい

設備・店舗等の現状D Iは全体で「▲10」と、前期比横ばいだった。

業種別では、製造業、卸小売業が横ばいで推移し、建設業が「不足」の幅が拡大した一方、サービス業は縮小した。

図7. 設備・店舗等の現状D I



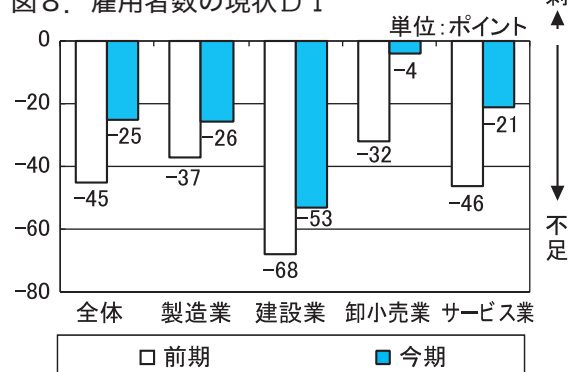
5. 雇用者数の現状 (図8)

不足の状態は改善

雇用者数の現状D Iは、全体で前期比20 P改善し「▲25」となった。

業種別でも全業種で前期比改善し、新型コロナウイルスによる業務の縮小などが原因の一つと思われる。

図8. 雇用者数の現状D I

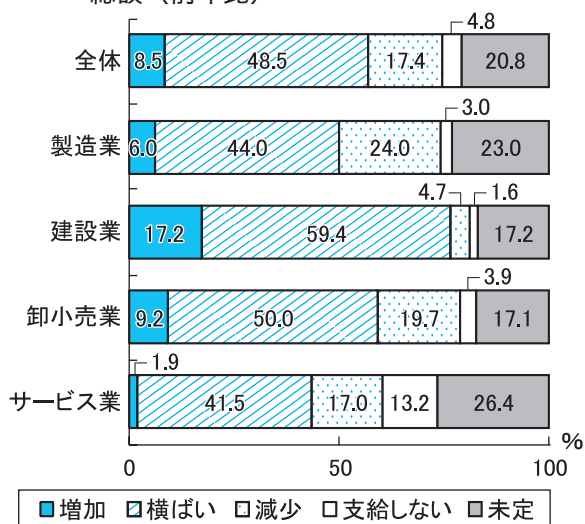


6. 2020年夏季賞与支給状況

(次頁図9、表3)

倍率・支給額とも前年より低下

2020年夏季賞与支給(見込み)総額は、全体で前年比「横ばい(48.5%)」が最も多く、業種別では、建設業の59.4%が「横ばい」と回答した。「未定」はサービス業(26.4%)が最も多い。1人当たりの平均支給状況は、全体の倍率が「1.38倍」支給額は「30万円」で、倍率・支給額とも前年より低下した。

図9. 2020年夏季賞与支給(見込み)
総額(前年比)表3. 2020年夏季賞与支給(見込み)
1人あたり平均支給状況

単位：倍、万円

業種	賞与	倍率		支給額	
		2019年	2020年	2019年	2020年
全 体		1.49	1.38	31	30
製 造 業		1.54	1.25	32	26
建 設 業		1.50	1.48	35	39
卸 小 売 業		1.40	1.38	29	27
サービス業		1.52	1.53	29	32

(「支給なし」「未定」「不明分」を除いた企業(218社)の平均値)

7. 2019年度の採用者数(表4、図10)

「中途採用」が最多

2019年度の採用者数は、全体で1,648人、「うち、県内」が1,169人(構成比70.9%)、外国人は109人(同6.6%)となった。

業種別では、サービス業(635人)が最も多く、製造業(583人)と続いた。「うち、県内」の採用者数は、各業種で採用全体の6~8割を占めた。外国人は製造業(82人)が最も多く採用していた。

履歴別では、「中途採用」が1,228人と最も多く、うち、県内は834人(構成比67.9%)外国人は100人(同8.1%)であった。

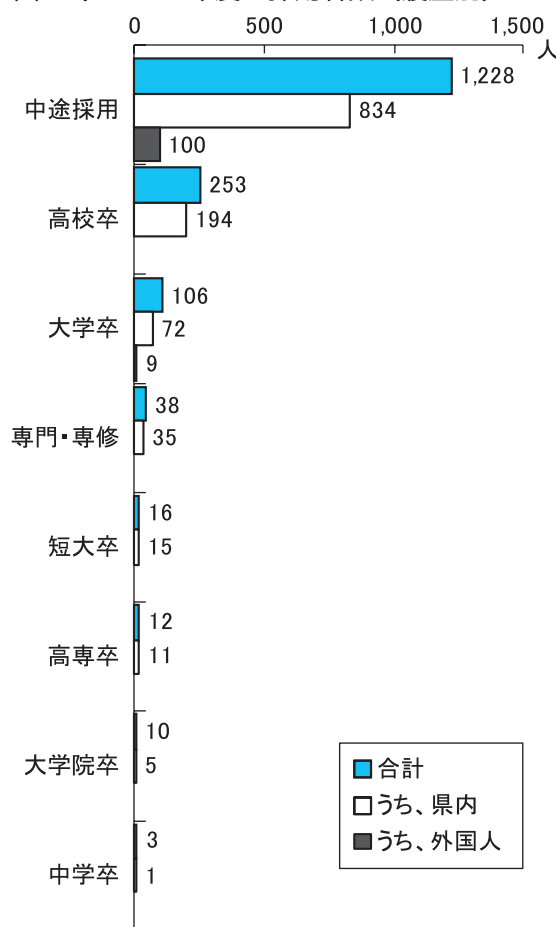
表4. 2019年度の採用者数(業種別)

単位：人(%)

業種	全 体	うち、県内	うち、外国人
合 計	1,648	1,169 (70.9)	109 (6.6)
製 造 業	583	370 (63.5)	82 (14.1)
建 設 業	195	137 (70.3)	10 (5.1)
卸 小 売 業	235	162 (68.9)	7 (3.0)
サービス業	635	500 (78.7)	10 (1.6)

(企業数：192社)

図10. 2019年度の採用者数(履歴別)



(企業数：192社)

8. 新型コロナウイルスの影響と対策

(次頁図11、12、表5)

影響の度合いは3月より「強まった」

新型コロナウイルスの影響が県内に及び始めた3月と、現在を比較した影響の度合いは、全体で「強まった(38.6%)」が最も多く、「変わらない(30.7%)」と続いた。

業種別では製造業、卸小売業、サービ

ス業で「強まった」の回答が4割超となった。

内訳では、プラスの影響として、医療・防疫品の需要増や、中食、テイクアウト、テレワーク関連商品の売上増が挙げられた。

マイナスの影響は、入荷や納品の遅れ、工期の延長、移動制限やイベントの自粛・延期による客数の減少、休業による売上減などがあつた。

図11. 新型コロナウイルスの影響の度合い（3月比）

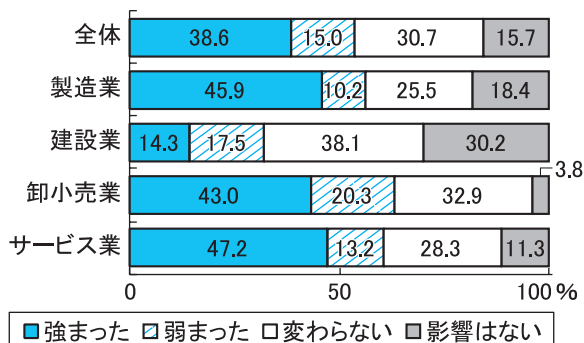


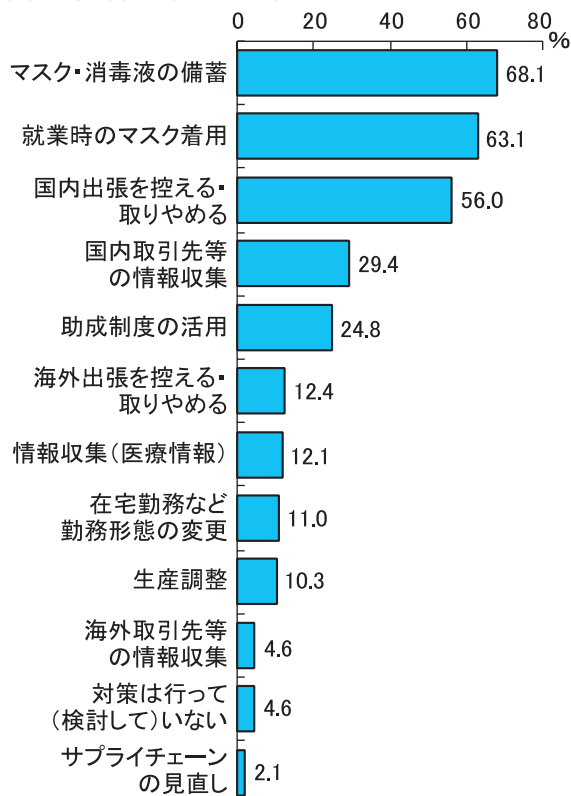
表5. 影響の内訳

プラスの影響	
医療用ガウン・マスクの受注増	
家具など模様替え関連商品の増加	
中食需要の増加	
テレワーク関連商品の売上が好調	
マスク・消毒液の特需	
マイナスの影響	
海外工場の操業停止、輸入の減少	
納期の遅れ	
国際郵便受付制限による輸出の停止	
商業印刷（チラシ等）が減少	
資材入荷の遅れ	
工期の延期、中断、県外派遣の停止	
住宅展示場の来客減	
休校や卒業・入学関連商品の需要減	
売掛金の増加	
訪問販売の自粛	
休業による売上減	
移動の自粛による乗客、宿泊客の減少	
イベントの自粛や縮小による集客の減少	
宴会、接待の減少	
出張の自粛	
婚礼、葬儀の延期、縮小	
家賃の減額	

対策は「マスク・消毒液の備蓄」が最多

新型コロナウイルスの対策では「マスク・消毒液の備蓄（68.1%）」が最も多く、「就業時のマスク着用（63.1%）」「国内出張を控える・取りやめる（56.0%）」となり、感染拡大防止の回答が上位となった。

図12. 新型コロナウイルスの対策



9. まとめ

今期の業況判断D I は本調査の開始以来、2番目に悪い結果となった。来期見通しはやや改善に向かうものの、依然マイナスの状態である。

夏季賞与では、1人当たり支給率・額とも前年を下回った。2019年度の採用者数は、業種別ではサービス業、履歴別では中途採用が最も多かった。新型コロナウイルスの影響は全業種に及び、悪影響の長期化も予想され、中長期的な復興支援が不可欠と考えられる。（勝池）

第101回企業動向アンケート結果(業種別)

		＜今期見込み＞				＜来期見通し＞			
		好転 増加 (A)	不変 (B)	悪化 減少 (C)	D I (A)-(C)	好転 増加 (A)	不変 (B)	悪化 減少 (C)	D I (A)-(C)
アンケート回答 企業の全般的業況	全 体	8	32	60	▲ 52	8	40	52	▲ 44
	製 造 業	7	34	59	▲ 52	6	36	58	▲ 52
	建 設 業	8	59	33	▲ 25	9	61	30	▲ 21
	卸 小 売 業	14	13	73	▲ 59	11	27	62	▲ 51
	サービス業	2	24	74	▲ 72	4	41	55	▲ 51
売上(出荷)高	全 体	9	27	64	▲ 55	6	39	55	▲ 49
	製 造 業	5	31	64	▲ 59	5	34	61	▲ 56
	建 設 業	12	43	45	▲ 33	6	58	36	▲ 30
	卸 小 売 業	14	10	76	▲ 62	9	26	65	▲ 56
	サービス業	4	24	72	▲ 68	4	43	53	▲ 49
経常利益	全 体	8	29	63	▲ 55	5	39	56	▲ 51
	製 造 業	5	32	63	▲ 58	4	32	64	▲ 60
	建 設 業	14	42	44	▲ 30	6	58	36	▲ 30
	卸 小 売 業	11	17	72	▲ 61	8	27	65	▲ 57
	サービス業	2	23	75	▲ 73	4	41	55	▲ 51
		現 状							
		楽 過剰 (A)	普通 適正 (B)	苦しい 不足 (C)	D I (A)-(C)				
資金繰り	全 体	14	60	26	▲ 12				
	製 造 業	14	55	31	▲ 17				
	建 設 業	20	71	9	11				
	卸 小 売 業	13	57	30	▲ 17				
	サービス業	9	61	30	▲ 21				
設備・店舗等	全 体	8	74	18	▲ 10				
	製 造 業	10	69	21	▲ 11				
	建 設 業	3	83	14	▲ 11				
	卸 小 売 業	9	76	15	▲ 6				
	サービス業	10	69	21	▲ 11				
雇用者数	全 体	11	53	36	▲ 25				
	製 造 業	15	44	41	▲ 26				
	建 設 業	2	43	55	▲ 53				
	卸 小 売 業	16	64	20	▲ 4				
	サービス業	8	63	29	▲ 21				

※回答社数構成比%
D I は%ポイント